

IV-244

都市の規模と駅前広場感

岡山大学 正員○山田 正人

岡山大学 正員 明神 証

山口県 正員 横田 史郎

1. はじめに 独立した都市の代表駅の駅前広場はその都市の顔としての機能を持つ。すなわち、初めてその都市を訪れた者は駅前広場によってその都市の第一印象を形成する。また、その都市を去るものには最後の直接的な印象を刻む要素の一つとなろう。そのような意味も含めて丁度良い広場を形成するための仰角の連続感と広場の大きさについて考察を加える。

かつて鉄道の駅は必ずその都市・地域の出入口として機能してきた。しかし旧来の町の中心部を避け、町の縁辺に位置したことも多い。もちろん大きすぎる都市においては地下鉄や地下街を介して直接都心の中核へと歩を進めることができる。都市が大きくなるにつれ要求される交通機能と都市機能との関わりにおいて広場の広さが規定されることになる。

近年、都市再開発等により、駅前に大規模な宿泊施設、商業施設が陣取ることが多い。このような壁体に囲まれた広場、商店の屋並、背景他の効果を比較した。

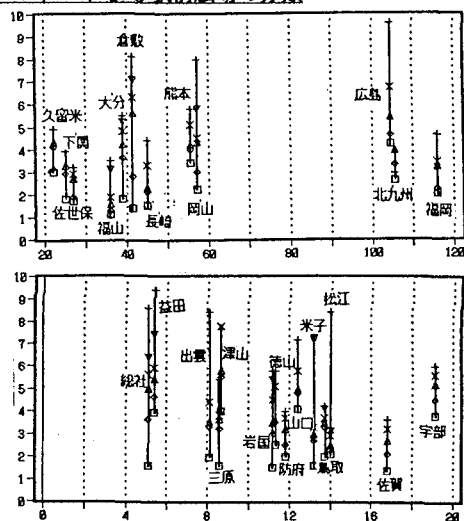
2. データ ここでは仰角の指標として対象までの距離と対象物の高さの比、 D/H を用いる。この値が小さいほど仰角が大きく、圧迫感が強く、全体を見渡すことができなくなる。一方、大きければ、広々とした感じとなり、この値の変動が及ぼす影響は小さくなる。

中国九州地方の宮崎・鹿児島・沖縄を除く各県の主要な26都市について代表駅を設定し、その主玄関を出てすぐの地点からパノラマ写真を撮影した。各駅に対し4～6点の対象とする建物を設定しその高さの対象までの距離を測定した。対象物の高さは写真から建物の階数等を参考に決めた。対象物までの距離は、市販の1～2万分の1程度の地図と写真より測定した。

写真は同一のカメラ・レンズを用いており、精度は1桁有効な程度で十分との判断である。また主玄関を出たところは、必ずしも駅前広場設計上の対称点とは同じでなくこの点注意を要する。

対象とした都市は概ね8万人以上の人口を擁する都市でJRの幹線上に位置し、互いに独立した圏域を持つことを原則とした。都市の連担関係は大きく3種に

分かれる。ほぼ等間隔に等規模の都市が並ぶ(山口、島根等)。大都市を擁しその周縁を減衰するように並ぶ(広島、福岡等)。2極の都市を擁する(岡山、鳥取、長崎等)。このとき前2者の性質を併せ持つ。

3. D/H による駅前広場の分類

縦軸: D/H 横軸: 人口(万人)
図1 人口と駅前広場の D/H

得られた D/H 値と人口の関係を図1に示す。 D/H の値は比較的まとまったところと大きく分散したところが見受けられる。比較的まとまったところは概ね①4以下のところ(広場型)と②4以上のところ(開放型)に分けられる。①においては仰角が大きく駅前広場としてまとまった広場感を醸し出しているところか、むしろ比較的窮屈な圧迫感のあるところであろう。②は仰角が小さく広々とした開放感のあるところか、殺風景な閑散としたところであろう。これと③まとまりのないところの3つに分類すると以下のようになる。

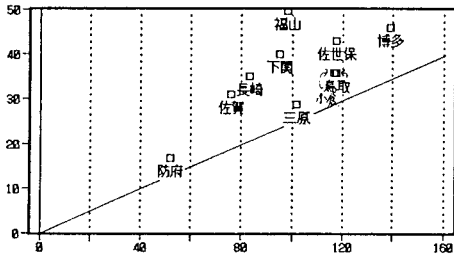
①広場型: 鳥取、三原、福山、防府、下関、佐賀、佐世保、長崎、小倉(北九州)、博多(福岡)

②開放型: 津山、米子、松江、益田、宇部新川(宇部)、広島、久留米、熊本

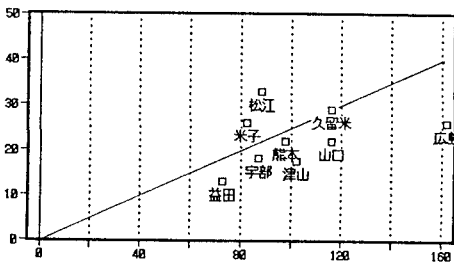
③混合型: 総社、倉敷、岡山、岩国、徳山、大分

①②について、各駅の対象物までの距離の平均、 $\bar{D}$

と高さの平均、Hの関係を図2に示す。ほぼ都市規模と相関を持った分布となっている。いくつかの典型例についてみる。



① $D/H < 4$ のとき



② $D/H > 4$ のとき
縦軸: H 横軸: D
図2 DとHの関係

①-防府……駅と平行に走る道路の対岸まで約50mで、広告看板も含め3・4階建て程度のファサードは比較的揃った屋並。駅と垂直方向の壁体は自動車に比べ高さが低いため広場感はないがむしろ開放感がある。建物はみやげ物店、駅前旅館、パチンコ店等で、昭和30年代の匂いがする。この、みやげ旅館パチンコ型の発展形のコンビニビジネスパチンコ型¹⁾は岩国駅前に見られるが雑然としており街並に落ち着きがない点D/Hに現われている。

¹⁾ コンビニエンスストア、ほか弁、サラ金等のワンフロア型の省スペース立地業種、ビジネスホテル等ペンシルビル立地型業種、パチンコ店等で構成される。

①-佐賀……高層のオフィスビル、シティーホテルで取り囲まれた一角は目抜き通り正面の本来の広場に付属する形でまとまりのある空間を造り出している。駅正面の目抜き通りは片側高層、片側低層であるがスカイラインが比較的揃っておりまとまりがある。中規模都市の駅前につきものの大規模小売店舗(大店:デパートに比べ高さはないが容積はある)も一角を占め、シティーホテル大店型とでも名付けられよう。徳山や三原が発展途上にあると考えられる。

①-博多……高層のビルが広場を取り囲み駅ビルも手伝って閉じた非常に重厚感のある空間を形成している。2つの独立したビルがあたかも一つの壁面を構成するように構成されたり、広場の出口、目抜き通り方向には適度のアイストップがあり広場の一体感を損なわない。地下街、地下鉄もあり主動線がそちらにあるのが勿体なくらいだ。(高層壁型)

②-益田……街を形成する道より引き込まれた駅への入導路はバスが転回していけるだけの駅前と駐車場を兼ねた広場へ通じる。広場は2階建て程度の低層木造を中心とする屋並。旅館より食堂が目立つ市街地から独立開放型である。遠景には山並みも見え隠れする開放感あふれるというより閑散とした広場である。D/Hが大きいのにもかかわらず以外に狭い感じを受ける。

②-山口……駅前は平行する道路までの家並を取り払い自動車でのアクセスに備えた広場を造った。駅は街と離れているものの空間的には目抜き通りを通してつながった。中高層の住宅が見通せる再開発開放型。

表1 人口規模順位

人口	人口密度	人口25	産業別	1	2	3
1 東京	5.1	東京	179.8	人口比	次	次
2 大阪	5.4	大阪	265.2	人口比	14.34	52
3 名古屋	8.1	名古屋	332.6	人口比	13.42	45
4 三原	8.6	三原	347.4	人口比	13.32	55
5 下関	8.7	下関	419.9	人口比	11.18	70
6 福岡	11.2	福岡	468.5	人口比	10.32	59
7 徳山	11.3	徳山	470.1	人口比	9.25	66
8 防府	11.8	防府	506.8	人口比	9.20	72
9 山口	12.4	山口	578.1	人口比	8.38	54
10 米子	13.2	米子	610.6	人口比	8.34	58
11 鳥取	13.7	鳥取	626.0	人口比	8.29	62
12 松江	14.0	松江	798.6	人口比	7.31	62
13 佐賀	16.8	佐賀	987.9	人口比	7.23	70
14 宇都	19.1	宇都	1011.3	人口比	6.35	59
15 久留米	22.2	久留米	1083.6	人口比	6.35	61
16 佐世保	25.1	佐世保	1114.4	人口比	6.27	66
17 下関	26.9	下関	1203.0	人口比	6.22	72
18 福山	36.0	福山	1345.6	人口比	6.21	73
19 大分	39.0	大分	1389.3	人口比	5.44	51
20 倉敷	41.4	倉敷	1411.0	人口比	5.22	73
21 鳥取	44.9	鳥取	1620.1	人口比	4.40	55
22 熊本	55.6	熊本	1780.9	人口比	4.27	69
23 岡山	57.2	岡山	1865.4	人口比	3.28	69
24 広島	104.4	広島	2191.3	人口比	3.19	77
25 北九州	105.6	北九州	3249.6	人口比	2.32	67
26 福岡	116.0	福岡	3448.3	人口比	2.19	79

4. まとめ D/Hにより駅前広場を分類した。D/Hと都市の規模は直接相関は見られないが、D/Hが大きい駅前広場をもつ都市においてはD I D居住の人口割合が低く、一次産業従業者割合が大きい。壁体となるオフィスビル・宿泊施設・大規模小売店は都市の規模に応じて出現するが、D/Hの大きい②の開放型ではこのような壁体となる施設の立地がみられない。大都市においても広島駅南口のように市街地から独立した立地、久留米のように民鉄駅前が顔となっているところでは開放型となることがわかった。